

桐工芸

歴史

金沢の桐工芸の起源は、室町時代からとも、江戸時代からとも言われている。明治20年代に、加賀蒔絵の巨匠大垣昌訓[おおがきしょうくん]が、桐火鉢に蒔絵加飾の技法を創案した。無地無色で豪快な桐の肌に、華麗な伝統蒔絵を施した火鉢は、部屋を華やかに演出するものとして喜ばれた。

挽き物形成で美しい特色を持つ金沢桐火鉢は、明治31、32年(1898、1899)ごろから中川與三郎によって生産、販売され、桐工芸の名が徐々に広まり、県内はもちろん、関東、関西から北海道、樺太まで出荷された。火鉢とともに仕上げた小型の煙草盆などの商品も増え、大正14年(1925)には金沢桐火鉢組合が結成され、大正末期から昭和初期にかけて、業界は販路を拡大していった。

特色

桐の木質は草に似た組織を持ち、気孔が多く軽くて割れにくいのが特徴です。耐湿、耐火性に優れ、物の保存に向いているため、箆筒[たんす]などの材料として最適である。

桐工芸品はこの特質を生かして、木肌の軟らかさと、温かみのある感触が、独特の風合いを醸し出している。桐火鉢は他県でも生産したことがあるが、材料の不足などもあり、現在では金沢が全国屈指の特産地となっている。

桐は早く生長し、県内全域で生育するが、白山麓、特に石川郡鶴来方面(現・白山市)の桐材がよく使用されている。



歴史與特色

明治20年代、加賀泥金畫の巨匠大垣昌訓首創了在桐木火鉢上施以泥金畫の加飾技法。

金澤桐木火鉢是用旋床技術加工而成，具有紋路精美的特色。大約在明治31,32年(1898,1899)左右，由名匠中川與三郎製作銷售，其後桐工藝の名聲漸為傳播，不僅是在石川縣內，還銷往關東，關西以及北海道，樺太地區。與火鉢配套製成的小型煙具盤等商品也陸續增加。在大正14年(1925)，結成了金澤桐火鉢組合，從大正末期到昭和初期，不斷擴大銷路。

桐木の木質組織與草相類似，具有氣孔多、材料輕而且不易碎裂的特徵。因其耐濕，耐火性良好，適合物品的保存，是製作衣櫃的最佳材料。

桐木工藝品正是利用了這個特質，木材本身具有的柔韌度和木材的溫熱感觸，散發出一種獨特的風味。金澤為全國屈指可數的特產地之一。

桐工藝

情報 資訊

主な生産地(主要産地)	金沢市(金澤市)
主な製品名(主要産品名)	花器、銘々皿、小箆筒、小物(插花用器皿、小碟、小櫃、小物品)
主な生産者(主要生産者)	金沢桐工藝振興会(金澤桐工藝振興會) 〒920-0932 金沢市小將町5-10(金澤市小將町5-10) TEL (076)231-2475